

旧香流苑土地利用に関する意見交換会  
(議事要旨 第1回)

(敬称略)

日時	令和5年11月22日(水) 午後7時から午後8時30分まで
場所	北小校区共生ステーション
参加者	<p>地元参加者 27人参加</p> <p>市側(説明)</p> <p>市長公室長 同室企画政策課室長 同室同課主事 建設部土木課課長補佐 同部同課維持管理係長 同部みどりの推進課長 くらし文化部長 同部次長(たつせがある、環境担当) 同部環境課長 同部同課ごみ減量推進係長</p>
内容	<p>1、前回の意見交換会では</p> <p>2、解体工事による抜根樹木</p> <p>3、清算事業にかかる費用</p> <p>4、市の財政状況</p> <p>5、市の考え方</p> <p>6、ご意見・ご質問</p>

(議事要旨)

以下、主な発言等

発言者	発言内容
参加者	<p>公募型プロポーザルは、配布資料の文面のとおり実施するか。</p> <p>樹木撤去図の着色以外の撤去しない樹木について、倒木や樹木の病気はないことを確認したか。</p>
回答者	<p>配布資料については、一例です。公募型プロポーザルという手法があるということをお示しする趣旨です。</p> <p>樹木撤去図の範囲については、大きく残るところを着色してあります。中に入り1本ずつ確認すると、傷んでいるものありますので、解体撤去工事の状況を見ながら皆さまとの意見交換会の中で、最終的に残せるか共有していきたいと思っております。</p>

参加者	<p>いつまでにどのように意見交換会を進める予定か。</p> <p>公募事業者が現れなかったら、どうするか。どうにかして売却するつもりか。</p>
回答者	<p>次回の意見交換会は、令和6年2月から3月を予定しており、来年度についても意見交換を重ねて参りたいと思っておりますが、令和6年12月頃までには方向性の整理をしたいと考えています。</p>
参加者	<p>一部を売却したいという一部とはどの程度か。99%も一部の表現になるので、食い違がないように確認したい。</p>
回答者	<p>大きく、みどりが残る範囲は、北側、東側、西側のエリアであり、どのエリアの、みどりを残し、または、一部使い方を変えるのかご意見をいただいて、何のために、みどりを残すのか皆さまと考えていきたいと思っております。その上で、みどりとして残す割合と売却する線引きをして、売却面積を今後の皆さまとの話し合いの中で決めていきたいと考えています。</p>
参加者	<p>一部売却がやむを得ないことは理解したが、実際、どれくらいの資金を調達したいと考えているか。</p>
回答者	<p>担当課のイメージとして捉えていただきたいですが、やはり解体撤去工事の清算にかかる必要があるため、半分は売却がやむを得ないと試算しています。しかしながら、いくらで売却できるか現段階で不明ですし、できるだけみどりを残すという条件を付すこともあり、価格は下がっていくことが予想されるため、様々な観点からバランスを見て総合的に判断していきたいと考えています。</p>
参加者	<p>古木が多く、また、密集率が高いので、倒木の恐れがある。維持のための費用がかかりすぎると考えるので、新たに、みどりを創生した方が結果的にコストを抑えられるのではないか。</p>
回答者	<p>この場所は、藤が丘駅から近く、市街化区域ということもあり、市としては単に残すのは難しいと考えますので、みどりを残した上で、どのように残し、活用していくか、また、何のために残すかが重要と考えています。例えば、この樹木は樹形が良く残していきたいということやキャッチボールがしたいから芝生にしたい等皆さまのご意見から考えていくこととなります。北側、東側、西側の、どのエリアを重点的に残すか等を決めていきたいと思っております。</p>
参加者	<p>前回、見学会で現地を歩いてみたら、みどりの多さに感激した。組合が閉鎖してから中に入れないのがもったいなく、入れたら良かったと思う。みどりを残すことについて、腐った樹木、腐りそうな樹木、残すことが適切ではない樹木があり、樹木の整理をしないといけなし、倒木しないよう、電信柱にかからないように費用をかけて枝払いしないといけなしかと思う。しかしながら、これだけのみどりは市内では、もうここだけなので、この貴重なみどりを是非残してほしい。みどりを残せるように皆さまと話し合いをしていきたい。</p> <p>売却する土地は道路に面していないと価値が下がる。購入者が北側のみどりを残してくれることが重要と考えている。ここを売却せずに残すと、真ん中の土地への出入りが狭くなるためである。購入者が北側のみどりを残す、または、自らみどり</p>

	<p>を活用することを条件としてはどうか。その上で売却する場合の条件付け、点数付けを議論していくと良いと思う。本来、購入者のみどりであれば部外者は立ち入れないが、公開空地という方法ができれば、東側は市有地として残し、北側は売却しながら、みどりを享受することができるので、このような形になれるよう、議論を尽くしていただきたい。</p> <p>(補足)</p> <p>公開空地とは、ビルやマンションの敷地内に設けられた広場や遊歩道、サンクンガーデン(半地下の広場や庭園)、ピロティ等の空地のこと。ビルやマンションの利用者だけでなく、周辺住民や通行人など、一般の人でも利用できるとされている。</p>
<p>回答者</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>
<p>参加者</p>	<p>今回、自分の土地利用のイメージをまとめてきたので5分ほど説明させてほしい。(参加者の方の同意を得て、説明いただいた。内容は、以下のとおり。)</p> <p>空地の活用を考えてみた。全員で良い方向に話し合いが向くと良いと思っている。</p> <p>地域の課題について、新聞や雑誌等で常に感じるものは、人のつながりが希薄化していることである。高齢者も子どもも、あいさつしても返って来ない。孤独死も周囲が気づきづらい状況で、社会的な問題になってきている。地域の伝承が継承されていないことも問題に感じる。災害時の非常電源や非常用の物資の在庫も把握できておらず、地域でできる再生可能なエネルギー確保が大事だと考えている。今後の利用のイメージについて、写真を付けてまとめたので、後ほど紹介させていただく。長久手住民が集うことのできる場所を前提に、みどりを残せたら良いと思う。</p> <p>先ほど財政や予算の説明をいただいたので、かなりハードルが高いことは承知している。一部売却の話が出ていたが、電力について、川が隣接しているので、川を発電に使ってはどうか。国が力を入れ始めており、川の流れを利用して、小電力発電することを提案する。そこで得た電力で自家消費をするものであり、河川法等の整備が進んできている。</p> <p>こういった土地利用を考える際に、一番の問題は高齢者の方が外に出たいのに、動けず出られないということだと思う。だから、ずっと閉じこもってしまう。発電した電力で、送迎用の電動バスを動かしたら良い。</p> <p>話が変わるが、子どもから高齢者までが太鼓、習字等文化継承を目的としたボランティア教室もあると良いと思う。自分の子どもの話をさせていただくと、高齢者の方に教えてもらっていて、ありがたい限りである。長久手市の歴史の話等をしてもらうのも良い。</p> <p>具体的なイメージをどのように考えているかと言うと、長久手市民の集いに場になるような、長久手市民だけの「サツキとメイの家」をつくってはどうか。</p> <p>そこにプラスして、文化伝承の場、澄んだ空気の散歩道、送迎車両、水遊びの場、発電ジム、小水力発電を考えた。</p> <p>発電のための水車は、海外では採用されている、人が動く発電するものである。こういうことも長久手市で実施しているのだと、発信の場にもしていける。</p>

	<p>水遊びの場があると子どもたちの学びの場になる。自分が子どもの頃は、川遊びは普通なことであったが、今は安全のことが強調され、子どもたちが自由に遊べなくなっている。</p> <p>最後に、目指したい姿についてですが、全住民が生き生きと過ごしてほしいこと、どうにもならない課題を抱えている住民の方を地域住民で支え合える場になってほしいこと、を望む。例えば、家族介助が使えないギリギリのラインにいる方の見守りの場や高齢化社会に向けて、先駆けた人間共生の場、さらに、クリーンな自然エネルギーのもとでゼロカーボンを目指していけるような場を希望する。全国に発信できるような、さらに住みよい長久手市になってほしい。</p>
回答者	<p>これまで、吉田市政で「つながり、あんしん、みどり」を掲げて参りました。</p> <p>地域共生として、希薄になった地域同士の結びつきを作り直し、街を再生するために行ってきた重点的な取り組みの1つが、まさに本日の会場、ここ共生ステーションを作り上げることでした。地域各地に共生ステーションを作り、地域の皆さん、子どもから大人、高齢者までが集って、おっしゃっていただいたような課題解決の場にしていこうと考え、今から10年、20年先の街の拠点を目指したものです。</p> <p>環境面に関するご提案については、ゼロカーボンシティ宣言をした長久手市には、夢のあるご提案として共感させていただきました。ご提案ありがとうございました。</p> <p>冒頭で申し上げました、みんなでつくるまち条例であるとおおり、市民の皆さまと一緒に話し合いを進めて参りたいと思います。老木のみどりを再生していくこと、子どもや高齢者の利用を優先に考えて、平場にしていくことなど様々なご意見があると考えています。時間はかかると思いますが、市民参加で皆さんとの意見交換会の中で作りあげていきたいと思っておりますので、よろしくお付き合いをお願いします。</p> <p>次回の意見交換会では、市有地として残す部分と売却する部分の境界線を例示させていただき、話を進めていきたいと考えています。</p>
参加者	<p>共生ステーションができた経緯と似ている思った。共生ステーションのように、屋外に集える場があると良い。みどりがあるところに子どもたちの声が響いているのは、とても心地が良い。最近の公園は決まりごとが多くあるし、保護者も厳しくなってきた、滑り台を下から登るな、とか砂場は汚いから触るな、とか言うが、個人的には子どもたちに水に触れる機会を与えられたら良いと思う。公園の水道水を際限なく使わせるのには抵抗があるが、井戸水ならば、じゃーじゃーと遊ばせられる。日常的に井戸水の存在を知っておくだけでも、防災面から考えても役に立つと思うので、井戸は残し、活用いただきたい。</p>
回答者	<p>目視ではありますが、井戸の水量については、結構流出しています。</p> <p>今後、井戸水については、止めずに外に流す工事を予定していますので、意見交換をしていく中で皆さまからご意見・ご要望があれば活用していきたいと思っております。</p>
参加者	<p>一部売却はやむを得ないと思う。先ほど半分ほど売却したいというイメージのご紹介があった。解体撤去費用を補てんしたいと話されていたが、残していく樹木の管理費等もあると思うので、議論を進めるために、どこかの段階でどこを売却したいのか、図を示していただきたいと思う。今回具体的に示すことは難しいと思うの</p>

	<p>で、財政的な売却目標額が示せる段階で、それを早い段階で望むので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>もう1点、公募型プロポーザルの方法で、項目や点数について事前に公開されるか。人選・評価内容・公開についての考え方、最低基準に満たない場合は、どう決め直すか。また、評価結果については、私たち市民に共有いただけるののかについても伺いたい。これらについても定まっていないと思うので、決まったら共有することを要望しておく。</p>
回答者	<p>今後の課題として受け止めさせていただきます。</p>
参加者	<p>私は早期退職し、里山保全や湿地保全のボランティアをしている。ここまで皆さんの意見を伺っていると「木を切ってはいけない」と思われていると感じた。私もボランティアに携わる前は、そう思っていたが、最近、学術的に里山というものを研究するようになってから、そこにある里山の水や樹木等の資源を再利用し、循環させることが本当に重要なことだとわかった。</p> <p>この地区は、窯業が盛んだったため、樹木が大きくなる前に伐採してきて、高木自体が存在しなかった。ここ10年で高木が存在するようになってきた。なぜかと言うと、利用されなくなったからである。利用されないと、里山はどんどん荒れていき、そこに竹という外来種が入ってきたことで、さらに高木は無くなっていった。タケノコを食べるため、江戸・明治時代に、ほとんどの場合、畑の近く植えられた。それが今、竹が暴走して根を張って、雑木林の方に広がり、竹を手入れしないと広葉樹が日の当たる高木か低木しか残らなくなった。今の里山保全の考え方は、昔の日本人が持っていたような、里山を再生して利用することである。理に叶った循環サイクルであったのがわかる。</p> <p>自然保護団体や活動団体に限って言うのと、木を切ることに對して、とにかく嫌悪感があり、その考え方が変わっていかないと、里山の循環していくという考え方が立ち行かない。</p> <p>樹木に対してもそうだし、食物に関しても、海外から入ってくる外来種を取り除くことは無理である。どうしていくかという話をすれば、食用とするしかなく、それでしか増大を防げない。食べることで命を繋いでいくことになる。</p> <p>みどりを保全することは、樹木を伐採しても株を残しておけば、そこから再生していき、その考え方さえあれば、循環が計られるということを実日も大学教授から伺った。</p> <p>みどりの保全や倒木等の話は、樹木を切っても循環の考え方で生きていく。生物が住める水は水道水のような綺麗な水ではない。人間にとっては良い水であっても、生物にとっては、そうではないかもしれない。人間中心の考え方ではなく、生物全体での考え方をしないと、考えが時代遅れになってしまうと思うので、私たちは、こういう視点で考えていくべきで、本日皆さまにお話させていただいた。</p>
回答者	<p>東側エリアには実際、竹がたくさん生息し、高木に浸食しているように見受けられます。</p>

	<p>北側・東側・西側どのエリアも、かなり年老いた樹木が多いのも事実です。そのため、どの樹木を残し、どれを撤去するのかは重要な判断になると思いますので、どれだけのみどりの面積を残せるのかという意見交換の中で決めていきたいと考えています。</p>
参加者	<p>井戸の成分分析はしているか。</p>
回答者	<p>井戸は、元々浄化槽を浄化する、水の汲み上げのために掘ったと聞いています。成分については、非常に鉄分が多いため、そのままでは利用できず、ろ過機を通して、浄化設備の方に回していました。飲料するには問題がありますが、人体に有害の成分は含まれてはいません。</p>
参加者	<p>次回、意見交換会のイメージはどのようなか。その後のイメージはあるか。</p>
回答者	<p>次回は一定の残すエリアと、売却していくエリアの図を市側でいくつか用意し、ご意見を伺いたいと考えています。その際には、みどりを活用する部分をこういう風に使いたいので残したい、一方でこんなには要らない等を伺っていきたくと考えています。</p> <p>その後の意見交換会につきましては、例えば2か月から3か月に1回のペースで意見交換をさせていただくイメージです。自ずと残りの回数は決まってくると思いますが、議論が煮詰まらない場合には回数を重ね、逆に早い段階で意見が一致して参りましたら、もっと早い時期に意見をまとめることができるかもしれません。</p> <p>皆さまとの意見交換の中で決まってくるので、この場で回数をお答えすることはできませんが、ご理解いただきたいと思います。</p>
参加者	<p>公募型プロポーザルは、いつ頃考えているか。</p>
回答者	<p>解体撤去工事が令和7年6月末までであり、逆算すると、令和6年度末から令和7年度始めのイメージです。</p> <p>そのため、先ほどお伝えさせていただいたとおり、意見交換の方向性は令和6年12月頃までに整理をしたいと考えています。</p>
参加者	<p>長久手市はゼロカーボンシティを宣言しているので、みどりを残してほしい。樹木も人と同じで、若い方が新陳代謝が良いので、若い樹木が良い。若い世代や子どもたちは森を知らずに育っているので、関われる場、みどりを自分で学んでいける場になってほしい。</p> <p>また、不登校な子どもたちが行ける場所が少ないと感じるので、子どもの権利を守る条例を作ることも検討し、子どもはじめ全世代の権利を守る場所になると良い。</p>
回答者	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>みどりには人の気持ちを落ち着かせる効果があり、学びになると聞きます。</p> <p>長湫南部ご出身ということで、あちらは市内でも、みどりが多いエリアになっていて、市の魅力アップに繋がっている認識をしています。</p>

	単に残すというのは財政的な観点から難しいことがありますので、目的・目標を持って話し合いをしていけたらと思います。
	以上